

27年度 第1回 都市機能・生活関連機能サービス検討分科会 議事録

- (1) 日 時：平成27年1月15日（金）11：15～12：30
(2) 場 所：えーるピア久留米 206 学習室
(3) 出席者：都市機能・生活関連機能検討分科会 11名（欠席委員 2名）
事務局 2名
各市町企画担当職員、各ワーキンググループ職員
※ワーキンググループは以下WGと表記

- (4) 次第及び議事： [○…委員質問・意見 ●…事務局等回答]

1. 開会

2. 委員の紹介

3. 議事

(1) 都市圏ビジョン（案）：将来像の実現に向けた具体的な取組みについて

〔圏域全体の賑わいづくり、高度な医療サービスの提供、地域医療、文化芸術に触れる機会の提供について説明〕

- まず最初に、ビジョン案に具体的な事業が提示されているが、分科会から「こんなことをしてほしい」などの意見を出せるかを確認した方がいいと思う。
- これから5カ年の計画として作っていくので、いただいた意見については、具体的な取組みに出来る限り反映していきたい。ただ、28年度事業については、一定枠組みが出来上がっているので、28年度事業にすぐに反映できない場合もあるが5カ年の計画の中で出来る限り反映していきたい。
- 今の話では、久留米市が中核なので、久留米市が情報やサービスを提供する形になっているが、それが逆になっても構わないか。例えば、シティプラザのような音楽の分野で言うと、確かにキャパが大きいのでそうなのかも知れないが、それぞれの自治体が計画しているイベントを連携して、逆にそちらに行くようなこともできるのか。
- 久留米市が中心となって進める部分もあるし、連携して役割分担のもと進める場合もあるので、両方考えてもらって良い。
- 今日の流れをみると、久留米が中心となって進める事業に私たちが意見を出していくように思えるので、もっとフレキシブルに出来るのであればよいと思う。
- そもそもこの制度の枠組みが、連携中枢都市が中心となり、その圏域をリードしていくということになっているので、そういう見え方になっている。圏域全体としてどのように取組みを進めていくかであるので、必ずしも久留米市の事業のみということではない。各市町からこの計画に盛り込んでほしいものがあれば、意見を出してもらいたい。
- 美術鑑賞事業について、小さい時に美術に触れさせることは大事ではあるが、小学生を「バスで美術館へ連れて行って、絵を見せて終わり」と思ってしまう。出来るならば、そこで子ども達が主体的に、絵を描いてみたり、何か作ってみたり、アーティストと触れてみたりと、絵を見せるだけでなく、プラスできるものが考えられればと思う。
- 新しい美術館では、教育普及といった観点から、ワークショップなど、子ども達が実際に主体的に取り組む事業もやっていく予定である。美術館の敷居を低くして、子どもたちが入りやすくなるような展覧会なども検討していきたいと考えている。ただし、このような取組みは、規模が大きくなると厳しいところがあるかもしれないので、やり方については工夫したい。

○「2 高次の都市機能の集積強化」で挙げられているのが、賑わいづくり、高度な医療サービス、文化芸術の3項目となっている。(国の資料では) 連携中枢都市圏に求められるものとして高等教育、研究開発の環境整備となっており、現状分析でも教育・研究機関の集積が述べられている。今後、教育研究機関との関連で検討されるものがあるのか。

また、美術鑑賞事業で関係市町が4市町だけとなっているが、今後増える見込があるのか。

●現時点では、高等教育機関、研究機関との連携については、経済成長のけん引の分野で取組むこととしており、研究機関と地元企業とのコラボなどを計画している。

各事業の連携は各市町に確認して、連携を希望する市町のみを掲載しているが、今後、一緒にやりたいとの話があれば、連携して取組んでいく予定である。

○「高次の都市機能」といった場合、どういうものを高次と考えたらいいのか。シティプラザや医療というのは分かるが美術鑑賞事業や芸術鑑賞といった場合の高次とはどういうものか。圏域内にどのように関わっていくのか。

●高次の都市機能」の高次の部分は、ここではコンベンション機能や大規模なホールを兼ね備えたシティプラザ、高度な医療機関や美術館など、中核的な都市にはあるが、一般の自治体が単独では持てないような施設や機能のことである。このような施設や機能を圏域として活用していくということで、これらの取組みを組み立てている。

○シティプラザや美術館など都市機能を、文化、芸術、教育などの面でこの圏域で活用していくのかということによいか。

●シティプラザでのにぎわい創造では、高いレベルのアーティストなどを国内外から招聘し、まずは、シティプラザのハコの中だけでなく中心市街地を中心として賑わいづくりを行い、人の流れをつくっていく。そして、それを久留米の中心市街地だけでなく、その後は圏域にも取組みを広め、圏域の賑わいづくりにも展開していきたいと考えている。

○賑わい創造における所管部局はどこか。

●美術などであれば、美術館や文化振興課になり、パフォーマンスであればシティプラザが所管することになる。

○ほかの3市2町はどうなるのか。

●3市2町からもワーキンググループに入ることになる。

○今回は、シティプラザというハコがあって、オープニング事業などの単発的な事業ではなく、圏域として永続的にどう活用していくかが大切である。

●このにぎわい創造事業は、分野が多岐に渡っており、現時点でどこが所管するのか定まっていないため、ワーキンググループが出来ていない。どのようにワーキングを組むかとあわせ、シティプラザを核に賑わいづくりをどのように圏域で展開するか検討を進めたい。

【子育て支援について説明】

○雇用創出を進めていく上で、特に育児中の方などは子育て支援が必要となる。そのような中で雇用創出とあわせて子育て支援の分野も施設の整備や事業の拡充を図られるのか。どこも、待機児童や一時預かりなど増えている。新たにできるシティプラザには一時保育の施設がない。

●シティプラザ近くでは、くるめりあ5階の児童センターがあり、市外からの一時保育も行っている。また、西鉄久留米駅横のリベールにも「くるるん」という施設があり一時保育をやっており、周知広報に力を入れたいと考えている。

○雇用されれば、土日に働かなければならない方もでてくる。小学生の日曜日の預かりなどは周りの

市町にもない。土日の預かり事業をどう考えているか。

- 現在は、児童センターで小学校3年生までの一時預かりを行っている。多くの施設に事業が展開できていないため、今後の課題となっている。
- 以前住んでいたところでは、保育園には市からの補助が多いが、学童には補助が少なく高い利用料を払って学童に入れるのが困難な人も多いようであった。このビジョンには学童に関する部分がないので、可能であれば学童の取組みが上げられれば良いと思う。小学校、中学校までの学習面を久留米でしっかりと出来れば事業に膨らみがでると思う。
- 付け加えて、保育園の入園や就学などを機に、保育料が安いところなど条件の良いところに引っ越しなどの話を聞くので、生まれた地の学校に行き、就職までできればそれが一番いいことではないかと思う。その時期だけでなく、つながりのある事業が出来たらいいと思う。
- 高次の都市機能としては、文化や芸術面などで久留米市の施設を利用させてもらうことは良いと思うが、子育て支援となると久留米市の施設を利用するだけでは出来なくて、日々のこととしてやっていく必要がある。大木町では、夏休みに週2回、預かり事業をやっている。また、学童は3年生までであるが、4年から6年までの居場所作り事業を週2回やっている。いずれも親が申し込むことになっている。子どもが自発的に歩いて行けるような場所があればいいと思う。それがこの場で解決できるようなことがあれば、この連携中枢都市圏のなかで取組んでもらいたい。
- 中高校生の見守りが抜け落ちている状況があり、関東などからの移住者は塾などが多い福岡市などに移住することが多い。中高生のフォローがあったほうが良いと思う。
- 中高生の見守りや学童などの子育て支援については、それぞれの自治体、地域で行った方が良いもの、広域的に連携中枢都市圏としていくが良いものを整理したうえで、広域連携でやった方がよいものについてはビジョンに反映させたい。

事業の説明が途中までとなっているので、次回、残りの説明を行い、本日出た意見も含めて、議論を深めていきたい。

(2) その他

〔次回、分科会の案内〕

- これで本日の懇談会は終了する。